

**製品名: GFAP(5C8)マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM11411**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:5000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	45kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GFAP
別名	GFAP; Glial fibrillary acidic protein; GFAP
遺伝子 ID	2670.0
SwissProt ID	P14136
免疫原	GFAP の合成ペプチド

**背景**

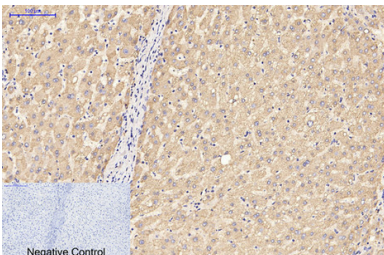
この遺伝子は、成熟アストロサイトの主要な中間径フィラメントタンパク質の 1つをコードしています。これは、発達過程において

アストロサイトを他のグリア細胞と区別するためのマーカーとして用いられます。この遺伝子の変異は、中枢神経系アストロサイトの稀な疾患であるアレキサンダー病を引き起こします。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008年10月]、代替産物：アイソフォームは、選択的エクソンによってコードされるC末端領域で異なります。、疾患：GFAPの欠陥は、アレキサンダー病 (ALEXD) [MIM:203450]の原因です。アレキサンダー病は、中枢神経系の稀な疾患です。アストロサイトの細胞質封入体であるローゼンタール線維の広範な蓄積を特徴とする進行性白質脳症です。最も一般的な病型は乳児および幼児に発症し、進行性の中核髄鞘形成不全を特徴とし、通常は10歳以内に死に至る。アレキサンダー病の乳児は、大頭症、発作、精神運動発達遅滞を伴う白質脳症を発症する。若年型または成人型の患者は、典型的には運動失調、球徴候、痙縮を呈し、進行はより緩徐である。、機能：クラスIII中間径フィラメントであるGFAPは、中枢神経系の発達過程においてアストロサイトを他のグリア細胞と区別する細胞特異的マーカーである。、オンライン情報：GFAP エントリ、類似性：中間径フィラメントファミリーに属する。、細胞内局在：中間径フィラメントと関連する。、サブユニット：SYNMと相互作用する（類似性による）。アイソフォーム3はPSEN1と相互作用する（N末端を介して）。、組織特異性：フィブロネクチンを欠損する細胞で発現する。、

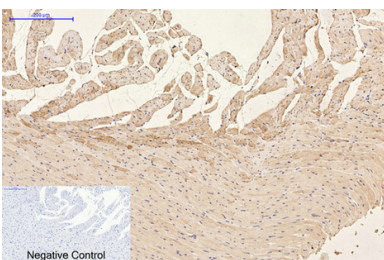
## 研究分野

神経科学

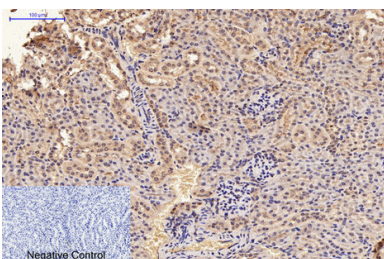
## 画像データ



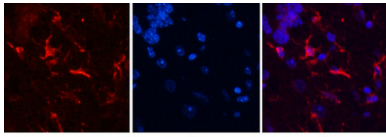
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. GFAPモノクローナル抗体 (5C8) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



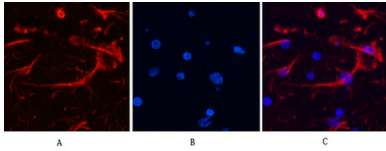
パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. GFAPモノクローナル抗体 (5C8) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



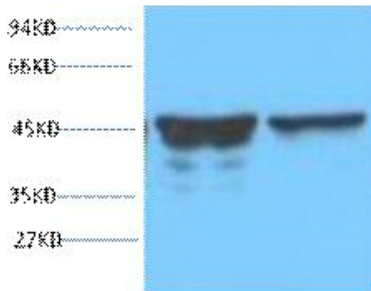
パラフィン包埋マウス腎臓組織の免疫組織化学染色。1. GFAPモノクローナル抗体 (5C8) を1:200に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



マウス脳組織の免疫蛍光染色。1, GFAPモノクローナル抗体 (5C8) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脳組織の免疫蛍光染色。1, GFAPモノクローナル抗体 (5C8) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



1:5000 に希釈したラット脳組織のウエスタンブロット分析。